

第9回全国大会報告

第9回商工会議所青年部全国大会を、全国から1,750人の青年経済人の参加を得て、11月16、17の両日、高知市で開催した。メインである大会式典は17日、高知市布師田のちばさんセンターで、日本商工会議所の石川会頭、中内高知県知事らをお招きして、「**「上げよう友情の輪 創ろう新時代の日本」**という平成元年度のスローガンに即した活動の展開を確認し合った。

全国大会の高知での開催は、高知商工会議所青年部の初代会長・宮地彌典らによる関係方面への積極的な働きかけとPRによって2年前、平成元年度の大会誘致にこぎつけたもので、実現には青年部の現役、OB会員の一致協力があった。

大会当日、歓迎の挨拶に立った高知県連の和田会長は、大会誘致決定から開催までの2年間、PRのため全国各地を訪問した際の思い出にふれ、「目的、志を同じくす



▲満場の拍手に応える石川日商會頭

る数多くの友との出会いは、何ものにも変えがたい貴重な財産となった」と、感激を新たにしていた。

現在、全国494の商工会議所のうち325カ所に青年部が設置されており、その各々が地域に根差した数々の事業を展開し、商工会議所活動の一翼を担っていると自負している。

そして、わが国の社会、経済のあり方が問題とされ、構造の変革を迫られている今日、母体である商工会議所が果たすべき役割が重要になるに従って、青年部の役割も重要になってきている。

日商の石川会頭からは、こういった状況を鑑み、「自らの地域の枠を超えて結束し、その交流の輪をさらに拡げることで、青年部の力をより一層強固なものにしていくことが、ますます必要だ」という激励の言葉をいただいた。



坂本龍馬分科会II(於・得月楼)

座長 橋田 庫欣氏

高知県文化財団保護連絡協議会会長

維新動乱の時代に活躍した坂本龍馬をはじめとする志士たち。その青春の軌跡をたどるとともに、その行動と論理を現代の企業人に置き換えて追求した。

そして、時代は自由民権の時代へと移行する。「自由は土佐の山間より」といわれるように、板垣退助、中江兆

民ら幾多の思想家を生んだ土佐の地で、自由の本来の意味を語り合った。

会場は、作家・宮尾富美子の「陽暉楼」の舞台となった料亭。

車座になった青年たちの高歌放吟は深夜まで続いた。

「太平洋は広いぜよ!」。

▲坂本龍馬分科会II

工業・地域開発分科会

(於・ホテルサンルート高知)

座長 富澤 信央氏

茨城県商業振興課

泉 順一氏

浜野商品研究所客員

「休暇と生産のバランス」。ともすれば相反するテーマに聞こえるこの2つ。富澤氏は、双方の持つ本来の意義とわれわれ青年経済人として分かりやすい捉え方を示唆してくれた。

「高知におけるウォーターフロント計画」。ご承知の通り、日本最大の土佐湾。黒潮洗う太平洋は、豊かな恵みと環境を与えてくれる。その貴重な財産、自然を尊重しながら、ウォーターフロント開発計画が着々と進んでいる。

泉氏は、世界的にも著名な浜野商品研究所客員として、日本各地の地域開発プロジェクトに携わってこられている。同氏の豊富な体験の蓄積は、われわれをうならせた。



▲工業・地域開発分科会

第9回 商工会議所青年部全国大会 商業分科会「これからの差別化戦略」



商業分科会

(於・高知新版急ホテル)

座長 中村 雄一氏

㈱サンマーチ代表取締役

講師 増田 宗昭氏

カルチャーコンビニエンス

クラブ㈱代表取締役

増田氏は、「これからの差別化戦略」について、自らの事業展開を例に、競合が激化する流通における生き残り、さらには成長のための差別化戦略

について熱心に語っていただいた。

出席者は自己の企業経営に役立てようと熱心にメモを取ったり、鋭い質問等、青年経済人らしい真剣で、迫力ある分科会であった。

懇親会では、座長と講師を囲み、明日の商業人について語り合う大きな輪ができた。

▲商業分科会

坂本龍馬I・国際交流分科会

(於・サンライズホテル)

講師 畑山 昌弘氏

土佐清水市教育長

橋本 邦健氏

龍馬生誕150年記念事業

実行委員会副委員長

土佐清水商工会議所青年部の主管で行われたこの分科会は、一関はじめ仙台、中野、瀬戸、松坂、奈良、新居浜、秋田、鈴鹿、福井、そして高知の青年部の方々に参加していただいた。

講演に当たっては、ジョン万次郎研究のオーソリティーであり、米国マサチューセッツ州のニューベッドフォード、フェアヘブン市と万次郎の郷里である土佐清水市を姉妹都市縁組へと導かれた畑山氏よりグローバルな視点の必要性が説かれた。

続いて、橋本氏からは自らが提唱して始まった建設運動の道のりについて、苦労話も交えながら、話していただいた。



▲坂本龍馬I・国際交流分科会

商工会議所ものがたり

明治の初めから、わが国経済をリードしてきた商工会議所は昭和二十八年、地域総合経済団体としての使命を従来以上に発揮できるよう、現行の「商工会議所法」が制定され、今日に至っている。以来、激変する環境変化の中で、商工会議所は「企業を育み、地域を伸ばす」とを合言葉に、地域社会の発展のために一歩一歩、着実に歩みを進めてきている。

パークスとの会話

わが国に商工会議所が設立されたのは、明治十一年(一八七八年)で、これには「のエピソード」がある。

当時、日本と諸外国の間には不平等条約が結ばれており、わが国が発展していかねば、大きな損害となっていた。

ある時、内務卿であった伊藤博文らがイギリス公使のパークスに、こう迫った。「不平等な条約の改正は国民の世論である」と。

若手経営者に期待する

現在、わが国経済は設備投資、個人消費の不振を中心として安定した拡大傾向にあり、景気見通しは明るいものがある。しかしながら、中小企業を取り巻く環境は円高、技術革新、情報化など依然として厳しい状況にある。

このような情勢下において、別府商工会議所は設立六十周年を迎え、地域内の商業の総合的な改善を図り、社会一般の福祉の増進に資するよう、目的に向かって積極的に活動していかねばならない。地域社会の先導者である商工会議所の果

わが国に、初めて商工会議所が設立されたのは明治十一年、それから百十年余を経た現在、全国の商工会議所数は四百九十四、総会員数三百三十四万。商工会議所は今、この力を結集し、百年以上の歴史と伝統を生かし、わが国の発展に貢献している。以下に、わが国に商工会議所が出来た経緯等、エピソードを交えて紹介しよう。

憲法や国会より古い歴史

海外の事情を調べ、日本にも商工業者の世論を代表する機関が必要だと考えたのが、明治の初め頃。早稲米先進国に追いつかなければ、国民の誰しもが真剣に考えていたからである。

海外に目を向けていた早稲米は、外国の商業会議所が産業の振興に欠かせない役割を果していることを知って、産業を興し、日本を近代国家の仲間入りにさせるためには、どうしても商工会議所が必要だと考えたのである。

海賊から商船を守る

ここで、世界目を転じてみよう。世界で最初の商業会議所は、五九九年、フランスのマルセイユに誕生した。

マルセイユは、地中海沿岸にあり、唯一の大海港として、早くからイタリアや東方諸国との貿易拠点になっていた。当然、貿易に伴って、いろいろな利害が発生し、これが大きな問題であった。

ある日、市会議と商人たちが一堂に集まり、問題解決の話し合いをした。これが直接のきっかけとなり、わが国に商工会議所が設立されることになったのである。

経済界に新風を



会頭 友永

昨、別府商工会議所青年部の主催により第九回九州ブロック運営研究会が開かれたが、全国でも最多の参加者を集めたことは、日本経済が一極集中型から多極分散型へ変わるころと、これからは地方の時代であることがうかがえる。

会議所には2つのタイプ

世界の商業会議所には、二つのタイプがある。

一つは、アメリカやイギリスが発達したマルセイユ商業会議所の流れをくむもので、一七〇〇年代の後半に定着したものである。この特徴は、商工業者自身が任意に集まって商工業の発展を目指す民間機関だということである。

もう一つは、ヨーロッパ大陸で発達したもので、ヘンリー四世、ルイ十三世時代にも商業会議所があったが、法制化されたものは一七〇〇年

ころのフランスのマルセイユにこのような経緯で設立されたので、その活動も貿易取引に関する慣習法の制定、港の浚渫や設備の改良など貿易に関することが中心であった。

ところが、当時は海賊が横行し、商船が襲撃されることもたびたびであった。そのため、商業会議所は艦隊まで持つ、海上保安の大事な役割を果たしていたのである。

商工会議所の名称

わが国では現在、商工会議所という名称を使用しているが、欧米では商業会議所という呼び方が普通だ。それは、フランスのマルセイユに

頃、ル十四世の時代にフランスに起こり、ナポレオンの大陸遠征によってドイツ、イタリア、オランダなどの国々にも広まったのである。その特徴は、商工業者の法的代表機関として政府の諮問に応ずるなど、行政機構の補助機関の性格を持つていたことである。

わが国の場合は、創立当初は英米型、明治の後半から戦前まではヨーロッパ型、そして戦後は、部大産型の特徴を持ちながらも、どちらかといえは英米型の制度をとっている。

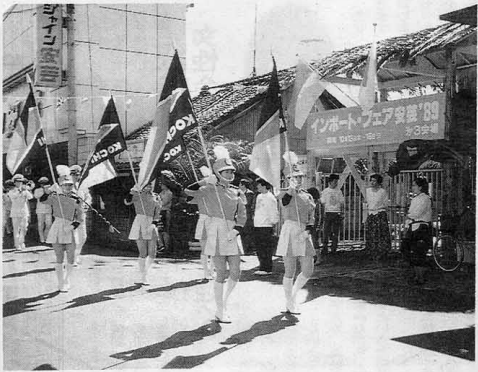
平成2年度の事業計画

- 組織の拡充・強化
 - 商青年と各地青年部の結束力の強化のため、組織上の向上を図る
 - (1)商青年加入率向上の推進
 - (2)各地青年部の結成促進
 - (3)ブロック別運営研究会及び会長会議の開催
- 連絡青年部連絡会の開催と東洋連の推進
- 研修・研究活動の充実
 - 青年部指導者並びに青年経営者としての資力向上を図り、併せて会員相互の親睦・連携を深めるための事業を行う
 - (1)中央研修会の開催
 - (2)同業、異業種及び地域間交流の促進
 - (3)海外視察研修等の実施
- 広報活動の推進
- 青年部活動の活性化を図るため、各地青年部の情報交換を促すとともに青年部活動を積極的にPRする
- (1)機関紙「翔生」の発行・配布
- (2)日本商工会議所発行の「会誌」所「二一」・「石垣」を活用

あるといわれる中であって、若手経営者が何事にも積極的に参加し、異業種交流等により多くの人とのお出合いの中から情報を収集し、自己研鑽に励むことが意識の現れであると

思。いろいろな業種の方々の集まりに積極的に参加し、今まで知らなかったことに発見し見聞を広めることは、確実に経営者としての資力の向上につながるものであり、予期しない経済環境の変化にも敏速に対応できる下地を先代々々形成されてきた伝統を守つてい

るだけで発展はありえず、その時代に適応した新しい経営感覚が必要になってきているのである。東欧諸国では民主化の波が押し寄せ、平和への新風が吹き寄せ



高知県警音楽隊による安芸市内パレード

安芸青年部
高知県

安芸商工会議所青年部は、商店街はもと市全体を活性化、国際化への認識を深め、中小商業輸入品販売促進事業、輸入品フェアを開催。初のインポートフェアを企画した。何分も初の試みだったので、全

初の輸入品フェア

市の活性化と国際文化交流

てが手取りの準備はあったが、親会議所、市警等、多岐の方々の物心両面にわたる援助、協力により、ようやく開催することができた。

今回インポートフェアは、特にインテリゲンシアをテーマに展開した。その特徴は、単なる輸入品の紹介、販売のみならず、インテリゲンシアの民族文化を広く市民にアピールしたことと、インテリゲンシアの文化を広く市民に紹介し、近隣の市町村との関係、紹介、より本物に近いパター

いきいき 日本列島青年部

武生市は福井県の中心部に位置し、豊かな自然と国府の歴史、繁栄した生活した都と「イテテ」のまちであり、まごころ打物や各地に売られている福井のまちである。工業出荷額は福井県一、今や商業のまちから工業のまちへと変貌しつつある。

こうした中で、設立から十三年目を迎えた武生青年部。会員数、百二十四人は、その活動の充実を図っている。設立以来、J.C.青年会議所(以下)の事業を展開し、わが青年部の事業を推進して、J.C.を四人は、その活動の充実を図っている。設立以来、J.C.青年会議所(以下)の事業を展開し、わが青年部の事業を推進して、J.C.を四人は、その活動の充実を図っている。



生き抜くための教科書 すべてわが青年部にある



菊傘おどりに参加した武生青年部メンバー



大成功だった「世界おもちゃ博覧会」

おもちゃ博物館 青年部提案



鳥取市制百年記念事業の「鳥取・世界おもちゃ博覧会」の開催に、鳥取青年部は、鳥取市に「おもちゃ博物館」を提案している。鳥取青年部は、鳥取市に「おもちゃ博物館」を提案している。鳥取青年部は、鳥取市に「おもちゃ博物館」を提案している。



燃える島

昭和五十四年に設立した当青年部は、沖縄県内外から多数の来賓を迎え、創立十周年の記念行事を盛況に挙げてきた。

燃える島... 昭和五十四年に設立した当青年部は、沖縄県内外から多数の来賓を迎え、創立十周年の記念行事を盛況に挙げてきた。今年、島内各地で、沖縄の文化、生活の体験、世界のコレクションの展示、安芸市の特別展、地場産品の展示等があった。今年、島内各地で、沖縄の文化、生活の体験、世界のコレクションの展示、安芸市の特別展、地場産品の展示等があった。

岩手県 連合会

岩手県商工会議所青年部連合会が、三月三日、盛岡市で設立総会が開かれた。

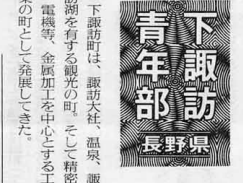
連合会設立総会開く

岩手県商工会議所青年部連合会設立総会が、三月三日、盛岡市で開かれた。



岩手県商工会議所青年部連合会設立総会

金刺盛澄公時代行列



下諏訪町は、諏訪大社、温泉、諏訪湖を有する観光の町として、精進・電機等、金刺盛澄公を中心とする工業の町として発展してきた。

また、しずく市は、年間百万人の参拝者の訪れる諏訪大社の門前には、地元の業者の協力により、「市」をたて、物産、特産品の販売、諏訪神社による大規模なイベントの実施など、地域振興のための実践を位置づけ、六十三年より実施している。諏訪大社の門前には、地元の業者の協力により、「市」をたて、物産、特産品の販売、諏訪神社による大規模なイベントの実施など、地域振興のための実践を位置づけ、六十三年より実施している。

青年部 岐阜県



関市を再発見した市民歩行ラリー大会

市民歩行ラリー大会 市の素顔発見に役立つ

関市は岐阜県の中心に位置し、瀬川と清流を高い長良川の中部にあつた。七百十年の歴史を持つ。今年、市民歩行ラリー大会が開かれた。

地域経済の発展に寄与



神奈川県内には現在、横須賀、小田原、平塚、藤沢、茅ヶ崎、厚木、相模原、三浦、相模原の商工会議所に青年部が設置され、それぞれが地域経済の発展に寄与している。

女性会員の目から見た青年部

今日、社会のあらゆる分野への女性の進出は目覚ましく、そのセシと行動力は今後、ますます大きな影響力を發揮してくると思われる。一方、各地の青年部でも約100人(全体約1%)の女性会員が活躍している。

女性会員の増強に力を注ぐ



美唄 青 年 部
星 川 あ け み

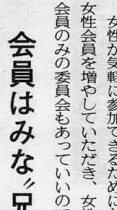
まず入会したのが契機でした。いざ入会したものの、右も左も分からないまま、初めて会合に出席したのが七月のヒール例会でした。この例会は文字通り、真夏の一夜を冷いヒールをのみながら、楽しいひとときを過ごすという主旨のものでした。

この時は、何の抵抗もなく参加することができましたが、その後、会員総会、新年列等は別にし、委員会総会、新任列等は別席のケースが多く、皆様に迷惑をかけているのでは……と、気になつてくるのが現状です。

ただ、これまで一年半という短い期間ではありますが、青年部活動を通して感じたことは、当青年部の女性会員は会員総数八十三人中、私を含めて二人の割合です。あまりにも女性が少なく、通常の

る。そこで、「女性会員の目から見た青年部」と題し、美唄(北海道)、富山(富山県)、浜松(静岡県)、高知(高知県)の四青年部の女性会員から青年部活動を通して感じたこと等について、ご寄稿いただいた。

会員はみな兄弟と思う



富山 青 年 部 会 員
三 恵 子

正直申しまして、自分が青年部で女性だと意識したことは、少ないです。会員みな兄弟と思っております。会員みな兄弟と思っております。会員みな兄弟と思っております。

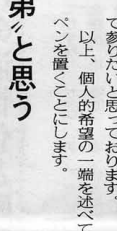
入会は、主人の卒業後でした。代理で出席したり、家族参加したり、幼なじみや同窓生が何人もいたりして、青年部には親しみがありました。富山青年部の女性会員第一号といわれ、回りは男性ばかりでした。し

か、違和感はありませんでした。一瞥で力を合わせ、より素晴らしい人間、企業でありたい」という思いの努力を惜しみなさい」という思い、同じです。ですから、女性といふより一会員としての方が……。

新年度に、各委員会での基本方針と事業計画が組まれます。年度ごとにかの団体のなごし顔をだしているの、無理はせず、しかし積極的に行事に参加したいと思っております。青年部の利点でありますように、

はなしかと考えます。よ、(歌のニュエーション)の中から普段考えられないアイデア等が出され、それが具体化されるケースがしばしばあると聞いております。八十数人の大団帯の中で、女性の意見が少しでも反映される組織になることを望みます。今後は微力ながら、私自身も女性会員の増強に力を注ぎたいと、足手まといにならない会員として努めて参りたいと思っております。

メンバーと会える充実の時



浜 松 青 年 部 会 員
石 野 美 恵 子

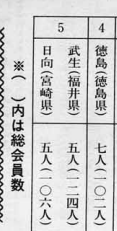
私は昭和六十二年七月、関東プロック運営研究会を控えるの会員拡大要員の一人として、平野弥生さん現ブルバ任在に勧められて入会し、総務委員会に所属しました。

大会を成功させるためのチームの結成により、やがて會員志士の親睦も深まり、心で伝心、互いの目でコミュニケーションがとれるようになってきました。仕事で疲れてうらうらした中でもメンバーと会えることにより充実した時間が増えて、明日の活力の源ともなりました。男性役員が共同戦線をとって団結し、スクラムを組むという行動の原点がここにあると感銘を受けました。

目的を同じにする者たちの行動は楽しく、また時には美しく、私にとっては新鮮な発見であり、新たな人生の第一歩を踏み出したような意義と感銘を受けました。

この間、女性会員(現在十三人)の交友の場である「ブルメユッソー」は、会合を通じて共通の体験を語り合い、互いの心のふれ合いの場となり、真に分かり合える友人同志へ発展しました。青年部に入り適度な緊張感、能率感覚、そしてちよとハードな心のシェイプアップをも身に付けていたいただきました。さまざまに精神のリハビリは、目撃し、行動に現われ、加えて物事を客観的にとらえられ、感情のコントロールがうまくでき、少しは立体的に社会視野に入れることができるようになった気がいたします。しかし、何となく大きな足踏は、多忙の中に時間を見出し、仕事も支障なくこなしたという、自信をつけさせていたいただきます。

全国女性会員と交流の場を



高 知 青 年 部 会 員
野 美 樹

私も少しは何か役に立てばと考えて始めました。私のモットーは「一生懸命」。何事も一生懸命取り組む、それが若さであり、努力への進歩の源です。実は私、けっこう明るいよこに見られるのですが、これが時と場合、落ち込みやすい人です。そんな時、自分、「一生懸命」「一生懸命になれ」と言われて勇気づけられました。また、まっすぐの中を分かっていない私です。自分に何ができていないから、でも、商工所にはたくさん良き先輩方がいらっしゃいます。その方々の指導のもと、仕事にも関心的にも、少しは成長できたと感じています。

最後に、全国的には青年部の女性会員が二百人余りいる聞きなれた。ぜひ、交流できる場を持てればと思います。女性同志、また何か違った物が生まれるのではないですか。

第7回中央研修会



「女性の目から見た経営者像について」をテーマに講演する波江野ECONO前編集長

全国商工会議所青年部連合会の主催による第七回中央研修会が二月六、七の両日、東京商工会議所ビル(東京都千代田区)で開催された。この研修会は、商青連が充足した昭和五十八年度から毎年開いているもので、青年部の果たすべき役割をはじめ青年部活動のあり方、運営上の問題等について討議するものとして、商青連が今年どのような事業を展開していくべきかを検討することを目的としている。

研修会には、全国各地青年部の代表者、初年度代表者約百九十人が参加し、次年度は、山本研修会長の開会のあいさつと、石川会長がこれからの商青連についてと題して基調講演を行った。

この中で、同会では日本経済の好調さに触れながら、われわれ青年部特にこの時代の商青連をもつ必要がある」と前置きし、「商青連は昭和五十八年四月の設立から七年目を迎え、創生記から成期を経て充実期に向かっており、その活動内容も一層充実させていかなければならない」と述べた。さらに、「各地商工会議所と地域経済の活性化のため、積極的に青年部及び商青連活動に参加し、若く力を発揮していただきたい」と強調するとともに、会員相互の結束と自己研鑽を訴えた。

引き続き、女性の目から見た経営者像について、「経済誌「ECONO」前編集長・波江野裕子氏、「商工会議所青年部への期待」(白

残っています。経済的の豊かさだけでなく、創造性と文化に満ちた豊かな地域社会づくりには、青年経営者たちが力を発揮する時だと思えます。私も負けずに、青年部のエネルギーをフルに利点を身につけ続けたいと思います。

昨年の高知での全国大会には、各地からたくさんの方々にお集まりいただき、その場、いろいろな方と交流でき、一緒に飲んだり、とても嬉しく、いつまでも忘れません。ありがとうございました。正直言って、全国大会は、また青年部活動をもっと理解したい、いろいろな活動の参加で、でも、大会は状態での参加でした。私に大きな感動を与えてくれました。そして、この大会に参加していただけたこと、とても感謝しています。これからも、自分の商売や趣味のことばかりでしたが、この時、もっと青年部活動を理解し、勉強して、積極的に活動に参加していきたい、女の

青年経済人の活力に期待

平成元年度を振り返って 商青連会長・石川正一



石川正一会長

わが国経済は、複雑・多様化する消費者ニーズの適切な対応(企業)の旺盛な設備投資に支えられ、首都圏での建設ラッシュは凄く、心配した急激な円高や貿易摩擦、消費財の実施や混迷した政局の影響等もなく、景気拡大が続いています。内需拡大政策の確立によって、内需主導型経済への転換を成功させ、かつての「いざなぎ景気」に匹敵する大型景気の到来ももたれられています。しかしながら、輸出比率の高い製品を伝統的な地産産業としていた地域や「重厚長大」型の産業を主導していた地域は、技術革新に支えられた「軽薄短小」型の新産業への変革と、円高やF.A.N.I.E.S.の追い上げ等によって依然として厳しい経済環境にあり、新製品の開発や新産業への移行等、本業の立て直しや新規事業の導入による多角化経営の樹立を余儀なくされています。

新しい時代の幕開けとなつた平成元年の時代を取り巻く経済環境は、かつてない変革を迫られており、今までの伝統(実績)を活かし、また既存の概念にまわれない新たな発想によって、二十一世紀に向けて新しい活路を拓いていかなければなりません。

また、急速な経済成長を遂げたわが国は、「世界の経済大国」へと成長し、国民の暮らしに対する価値感(複雑かつ多様化)と、国民生活へのニーズは、ゆとりと潤いに満ちた生活、一人一人の豊かさを幸せ

な人生実感できる(世界の平和と国へ)と移行しつつあります。このような社会環境のもと、企業生き残りの条件は技術革新と柔軟な発想、エネルギー(な)な動力によって高度なサービスを提供するしかないといわれ、今は若手経済人の熱意ある行動が求められる時はあります。

昭和の時代が平成になったが、

組織強化と活動内容の充実

各地青年部の全国組織である全国商工会議所青年部連合会(商青連)では、商工会議所青年部の「綱領」「指針」を策定し、青年部活動の進むべき道筋を明確にしています。しかしながら、各地の青年部は、それぞれの商工会議所の重要性によって自主的に組織され、地域の事情に合わせて運営されてきたため、設立に至った背景をはじめ、その運営方法や活動内容にも大きな格差があります。さらに、その一部を除いては、その歴史が浅く青年部の位置づけや代表者の呼称、資格条件や年齢制限等がまちまちで、早急な整備しなければならぬ諸問題が山積しています。

平成元年度という節目の年に、設立から七年目を迎えた商青連は、「拡げよう友誼の輪 創ろう新時代の日本」をスローガンに掲げ、地域の枠を超えた交流の輪を全国に広げ、会員相互の友情を深めることにも、豊かでも住みよい地域社会の創造と組織強化を旨とし、広範開の事業を展開してまいりました。

元年度の最重点活動目標は、創生期から成長期を経て充実期へ向かう商青連の全国組織としての位置づけを明確にするために、「綱領」「指針」に謳われている青年部の活動指針に従って青年部の現状を総点検し、内容の充実した活力ある商青連を目標として組織の拡充・強化を図る

ことになりました。その一環として、各ブロックや県単位での商青連加入青年部等との懇話会を開催し、商青連の役割を認識してもらい、青年部の設置や商青連への加入を促進しており、こうした活動の結果が顕著に現れています。

現在、全国四百九十四の商工会議所(三百二十五の青年部)が設置されており、設置率は五割を超えています。また、各地方商工会議所においては活発な設置進捗が行われた昭和五十四年当時と比べると、過去十

年間で設置数は四倍を超える伸びとなつています。近年の経済社会環境の大きな変革によって、地域総合経済団体である商工会議所果たす役割の重要性が再認識されつつあり、こうした中において、商工会議所活動の活性化を図るよう、青年部に対する期待も大きくなり、昭和六年から青年部の位置づけを定款に明記していることになりました。また、定款に明記している商工会議所は、まだ全体の約二五%です。今後は活動実績を裏に積み上げ、その数を増やしていく必要があると思いをしました。

また、相互研鑽により自らの経営能力を高める自らの企業の繁栄と活力を育むことを目的に、十月五日(八月)の約百人の青年経済人の参加を得て企業視察研修セミナーを実施しました。

セミナーの初日は、ニートレンドを創造し、「みなとみらい横浜」の創造で全の注目を集めている横浜市の再開発構想の話を中心として、姉妹二市の大規模複合型「ヨックピングセター・マイカル本牧」を訪問。翌日は、社員「テクノロジー」教育の最先端をいく日本航のトレ

「昭和」が「平成」に変わっただけでなく、わが国も大きな転機を迎えたいと思います。新しい構想の平成時代が、来るべき二十一世紀に向けての転換期であるならば、歴史が実証している通り、その主役を務めるのは、エネルギー(行動力)を持った若手経済人でありたいです。

新時代は、地域活性化の意欲が新しい文化的創造の気運を盛り上げる「青年経済人の活力」を求められているのです。

「昭和」が「平成」に変わっただけでなく、わが国も大きな転機を迎えたいと思います。新しい構想の平成時代が、来るべき二十一世紀に向けての転換期であるならば、歴史が実証している通り、その主役を務めるのは、エネルギー(行動力)を持った若手経済人でありたいです。

新時代は、地域活性化の意欲が新しい文化的創造の気運を盛り上げる「青年経済人の活力」を求められているのです。

「軽率な意見だ」と思ふのが私の本音ですが、「商青連」に入会するメリットは何かという質問に、まだまだ未週知です。七月目を迎えた商青連であり、会員にメリットのない組織が継続して発展することはありませんが、商青連は、日本経済をリードする日本商工会議所が世帯役をする国の青年経済人集団であり、経営に関する全国の若手経営者の集まりであり、経営に関する頭脳集団組織ともいえます。

同業種・異種種かつ同世代のリーダーが地域の枠を超えた交流の輪を拡げることが、情報交換と相互研鑽の場となり、情報の分析力と先見性を養い、マロ的に自らの企業を奮闘することができるとは、いかなる場合でも、公的活動を目的とする奉仕活動は、時間と会費のムダ使いではないかと自問自答を繰り返しながら、地域のため、将来のため、自己研鑽のため等

事・業・活・動・報・告

商青連では去る七月二十七日、日商石川会頭を囲み、一時間余り行った有意義な懇談会を実施いたしました。

商青連役員と石川会頭との懇談会が行われたのは今回が初めてで、石川会頭は「青年経済人は大きなビジョンを持つて、また、将来の商工会議所を背負って立つた、青年部であり、お互いが切磋琢磨して青年部を大に盛り上げねばならない」と、私を叱咤激励していただきました。

「本日は、大変いい機会でありました。全国の青年部の皆様にもよく、和やかにともに懇談会は終

了しました。

また、相互研鑽により自らの経営能力を高める自らの企業の繁栄と活力を育むことを目的に、十月五日(八月)の約百人の青年経済人の参加を得て企業視察研修セミナーを実施しました。

セミナーの初日は、ニートレンドを創造し、「みなとみらい横浜」の創造で全の注目を集めている横浜市の再開発構想の話を中心として、姉妹二市の大規模複合型「ヨックピングセター・マイカル本牧」を訪問。翌日は、社員「テクノロジー」教育の最先端をいく日本航のトレ

「ニクスセンター」を見学しました。

平成元年度のブロック別運営研究会は、八月二日の近畿ブロックを皮切りに北海道(四月十日)、九州(八月十七日)、四国(九月三日)、関東(九月八日)、中国(九月十一日)、東北ブロックを最後に、全国十ブロックで開催されました。運営研究会への参加者は、全国二百九十三方の青年部・三千九百六十六人で、過去の参加記録を大幅に更新しました。地域をよく愛し、地域を支える勇気と気概を持つ「若い力」が

して青年部の役割分担を明確にし、地域活性化のために積極的な活動のできる青年部の「イメージ」づくりの展開が大切であります。

「軽率な意見だ」と思ふのが私の本音ですが、「商青連」に入会するメリットは何かという質問に、まだまだ未週知です。七月目を迎えた商青連であり、会員にメリットのない組織が継続して発展することはありませんが、商青連は、日本経済をリードする日本商工会議所が世帯役をする国の青年経済人集団であり、経営に関する全国の若手経営者の集まりであり、経営に関する頭脳集団組織ともいえます。

また、地域の特性を活かした地域開発は、長期ビジョンを持った住民の個別プランと住民に身近な「市町村」行政の総合性を確保したプロジェクトとの調和が必要であり、行政と地域住民のコンセンサスを得ながら相互連携を深めなければなりません。二十一世紀に向けて地域の発展は物流の拠点から人材の集まる拠点へ移動するといわれ、豊かな郷土づくりに貢献できる人材育成が地域発展の課題となっています。

「行動不息して成果なし」の名言に学び、情熱的な行動のできる青年経済人を目指そう。

るとともに、鈴木健二氏の講演をはじめ交流分科会等、盛り沢山の研修プログラムによって、次代の先導者を自覚して自己研鑽に励ましました。南国土佐の地域特性を存分に活かした内容の充実した盛大な全国大会となり、商青連史上の一大イベントを飾りました。

また、第七回中央研修会は、二月六、七の二日間わたって開催されました。引き続き第十回通常総会(平成元年度の事業計画案)と収支予算案が承認され、平成元年度の公式行事の締め括りとなりました。

この一年間、ご支援・ご協力いただきました皆様方に対しまして、厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。



これからの商青連

「軽率な意見だ」と思ふのが私の本音ですが、「商青連」に入会するメリットは何かという質問に、まだまだ未週知です。七月目を迎えた商青連であり、会員にメリットのない組織が継続して発展することはありませんが、商青連は、日本経済をリードする日本商工会議所が世帯役をする国の青年経済人集団であり、経営に関する全国の若手経営者の集まりであり、経営に関する頭脳集団組織ともいえます。

同業種・異種種かつ同世代のリーダーが地域の枠を超えた交流の輪を拡げることが、情報交換と相互研鑽の場となり、情報の分析力と先見性を養い、マロ的に自らの企業を奮闘することができるとは、いかなる場合でも、公的活動を目的とする奉仕活動は、時間と会費のムダ使いではないかと自問自答を繰り返しながら、地域のため、将来のため、自己研鑽のため等

「昭和」が「平成」に変わっただけでなく、わが国も大きな転機を迎えたいと思います。新しい構想の平成時代が、来るべき二十一世紀に向けての転換期であるならば、歴史が実証している通り、その主役を務めるのは、エネルギー(行動力)を持った若手経済人でありたいです。

新時代は、地域活性化の意欲が新しい文化的創造の気運を盛り上げる「青年経済人の活力」を求められているのです。

第10回全国大会

11月16~17日、浜松で

平成2年度の全国大会は11月16、17の2日間にわたり、静岡県浜松市で開催される。前橋から始まったこの大会、高岡、大分、水戸、福井、福島、沖縄、山口、高知と続き、今回は10回目と、記念すべき大会となる。主管する静岡県連では昨年4月から準備委員会を設置し、開催に向けて鋭意取り組んでいる。記念講演には未来学者のアルビン・トフラー氏を招聘、国際色を帯びた大会となりそうだ。そこで、第10回大会の内容について、その一端を紹介していただいた。



二十世紀最後の十年の幕開けの年、平成元年十一月十六日(金)、十七日(土)の二日間、商工会議所青年部全国大会が浜松で開催される。記念すべき十回大会である。「新時代を迎える世紀末」にさわりの「ハイパーシフト」なる新刊出版予定。トフラー・キャンペーンも世界的である。

二十世紀最後の十年を築き上げたアイデンティティの形成の場と位置づけられた式典、テクノロジーの建設に際するエネルギー、音光、映像の世界を存に演出し、浜松のコンセプトをプレゼンティンとする予定である。

記念講演の講師となるアルビン・トフラー氏(Alvin Toffler)。一九二八年、ニューヨーク市生まれ。ニューヨーク大学卒業後、「フォオチュン」副編集長を務め、コーネル大学教授を経て、ロッキーフ・財団、A.T.T.顧問を務める。七〇年に「バスターセー」となると「第三の波」を発表。八〇年には「第二の波」を発表し、流行語になるほど各分野に影響を与えた。

島まで観光資源の豊富な静岡。静岡県連でのご案内いたします。風光明媚な静岡の風物と熱い人情にふれたい。大会の感動をお土産に持ち帰りたい。大会への参加を心よりお待ちしております。

「油断大敵」(備えあれば憂いなし)と、昔の諺をいま一度思い出し、世界との共存共栄、企業理念をきかせるべきではないだろうかと思われています。

最後に、この機関紙「翔生」を通して、全国の青年部のメンバーとしても流れが本流になれば大変幸いです。本誌発行に好意を寄せ、記事をいただきました皆様、関係の方々に対して厚くお礼を申し上げます。編集後記といたします。(広報委員長 小林幹生)

利き酒コナを主催する。エキスカンションは、静岡県西部の浜名湖、中部地方には清水の日本平、東部には富士山、箱根、伊豆半島まで観光資源の豊富な静岡。静岡県連でのご案内いたします。風光明媚な静岡の風物と熱い人情にふれたい。大会の感動をお土産に持ち帰りたい。大会への参加を心よりお待ちしております。

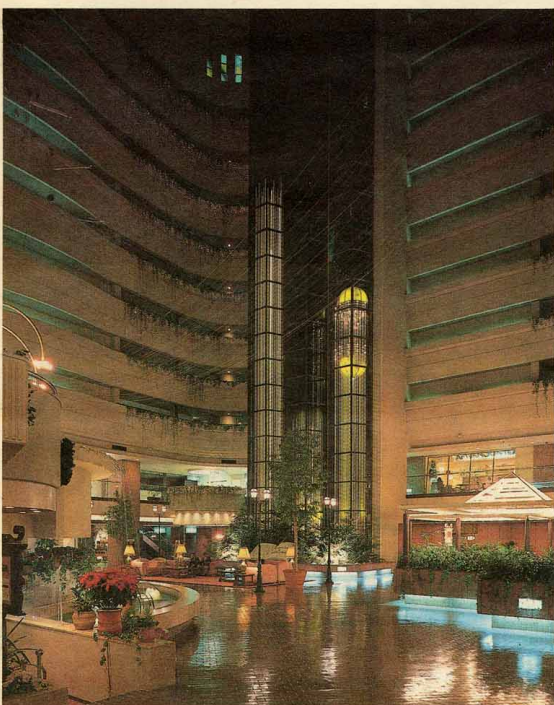
一日、十ラウンド一分三秒。マインク・タイソン対ジェームス・デュラスによるプロボクシングの世界ヘビー級タイトルマッチの試合で、「よもや」と思われたマインクの活躍が、王者「タイソン」が「KO」された。マインクに沈んだ光景を、しばらくはテレビで見ているわが目を疑った人



商連理事・柳谷嘉氏(やなぎやま)と、青森商工議所青年部・直前部長、四十八歳。二月一日早朝、商連理事の柳谷萬氏が直腸がんのため逝されました。ここに謹んで哀悼を献じます。

平成2年度役員紹介

- ◎会長 小林 幹生(岩国(山口県)・直前部長)
- ◎副会長 長岡 正勝(美(北海道)・監事)
- ◎監事 長岡 中村 公英(青森(青森県)・副会長)
- 大愛 恒雄(富山(富山県)・相談役)
- 能澤 孝博(桐生(群馬県)・会長)
- 成章 成章(名張(三重県)・理事)
- 石原 将宏(彦根(滋賀県)・元副部長)
- 津本 恵一(津山(岡山県)・直前部長)
- 和田 均(高知(高知県)・会長)
- 首藤 始(別府(大分県)・理事)
- ◎理事 荒井 範明(遠軽(北海道)・会長)
- 宮城 達男(仙台(宮城県)・会長)
- 伊藤 健(大(秋田県)・監事)
- 高木 広文(山形(山形県)・常任理事)
- 野地 純一(郡山(福島県)・副会長)
- 酒井 健一(熊(新潟県)・常任理事)
- 倉島 信夫(松代(長野県)・直前会長)
- 中川 清(生浦(茨城県)・会長)
- 加藤 敏夫(真岡(栃木県)・会長)
- 正男(大宮(埼玉県)・会長)
- 堀川 良則(千葉(千葉県)・会長)
- 竹内 英明(横須賀(神奈川県)・直前会長)
- 松井 茂(茂(岐阜県)・会長)
- 前田 龍生(春日井(愛知県)・理事)
- 河瀬 一治(敦賀(福井県)・会長)
- 大西 信康(北(大阪府)・元会長)
- 三好 啓介(高砂(兵庫県)・会計)
- 沢井 啓介(奈良(奈良県)・直前会長)
- 長谷川 泰二(米子(鳥取県)・理事)
- 永通 烈志(松江(島根県)・専務理事)
- 堺 克由(徳島(徳島県)・会長)
- 大西 治(観音寺(香川県)・監事)
- 曾根 健(大(愛媛県)・副会長)
- 鈴木 和幸(鹿島(佐賀県)・会長)
- 牧山 暢茂(平戸(長崎県)・直前会長)
- 富田 正高(水戸(宮城県)・会長)
- 与那嶺 智雄(沖(沖縄県)・直前会長)
- ◎監事 上條 紀夫(清水(静岡県)・直前会長)
- 光廣 雅治(岩国(山口県)・理事)



全国大会の会場となる「グランドホテル浜松」

性的刺激の場としての懇親会、一人ふれあい、友情をテーマに、アトリウムロビー全体が懇親会場に……。アトリウムロビーは、都に……。アトリウムロビーは、都に……。アトリウムロビーは、都に……。

商工会議所青年部の設置状況

ブロック名(設置所数)	設置所数	青年部設置商工会議所(325)
北海道 (14/40)	40	帯広、岩見沢、根室、余市、美瑛、遠軽、稚内、赤平、湧河、上砂川、登別(11)
東北 (37/43)	43	青森(4)、岩手(6)、秋田(5)、山形(10)、福島(10)、青森(4)、岩手(6)、秋田(5)、山形(10)、福島(10)
北信越 (31/50)	50	新潟(18)、富山(8)、石川(6)、福井(2)、長野(2)
関東 (67/94)	94	水戸(9)、群馬(9)、栃木(9)、茨城(9)、埼玉(9)、東京(9)
近畿 (45/72)	72	京都(12)、大阪(18)、兵庫(17)、奈良(7)、和歌山(7)
中国 (33/51)	51	鳥取(4)、島根(8)、岡山(13)、広島(12)、山口(14)
四国 (26/29)	29	徳島(6)、香川(6)、愛媛(11)、高知(6)
九州 (49/76)	76	福岡(19)、佐賀(8)、長門(9)、熊本(10)、鹿兒島(10)、沖縄(13)
商連特別会員		北海道連絡協議会、青森県連、宮城県連、福島県連、群馬県連、岩手県連、山形県連、新潟県連、富山県連、石川県連、福井県連、長野県連、岐阜県連、静岡県連、愛媛県連、高知県連、福岡県連、大分県連、佐賀県連、熊本県連、鹿兒島県連、沖縄県連